

# 公立岩瀬病院中長期計画の進ちょく状況について

平成 25 年 4 月～平成 25 年 9 月までの達成状況（中長期計画 29 ページから 30 ページ）

## 【3】目標達成のための具体的な取り組み

### 1 民間的経営手法の導入

	目 標	取組の実施状況	自己評価
民間病院会計に準じた会計制度の採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理会計による予算管理と経営分析導入</li> <li>・財務経理体制の強化と外部監査の継続</li> <li>・部門別損益計算の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度に実施予定の公営企業会計制度改定（企業会計に近づけた会計基準の見直し）に向けた準備として会計システム更新を準備中で、平成 26 年 4 月より稼働予定している。これにより経理事務の一層の効率化も図ることができる。</li> <li>・公認会計士から毎月定期的に指導を受けた。</li> <li>・部門別損益計算の導入については、会計システム更新と併せて検討</li> </ul>	26 年度新会計制度の実施にむけた準備を計画とおり実施
B S C の本格導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客、財務、業績プロセス、学習と成長の視点から目標管理、評価をすすめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場 B S C（バランスト・スコアカード）を 7 月に作成した。</li> <li>・6 月 19 日、9 月 12 日の 2 回 BSC 病院管理者研修を実施した。</li> <li>・今後は進捗状況について評価を行っていく予定である。</li> </ul>	BSC 導入について計画とおり実施

### 2 収入増対策

		取組の実施状況	自己評価
医師の招聘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医クラスの医師招聘</li> <li>・医師招聘プロジェクトチーム活動強化</li> <li>・女性医師の受入体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師招聘会議を毎週開催し、医師招聘に向けた具体策を検討</li> <li>・県外医師招聘に向け積極的に取り組み、杏林大学、順天</li> </ul>	常勤医師の招へいは、引き続き取組み必要。その他計画と

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医受入体制の整備</li> <li>・インセンティブの強化</li> </ul>	<p>堂大学、日本医科大学、日本赤十字社医療センター、国立国際医療研究センター、名古屋大学、東京医科歯科大学、昭和大学を訪問、医師の派遣を要請した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・順天堂大学より4月から消化器内科医師の毎週火曜日</li> <li>・日本医科大学より小児科医師毎週水曜日（10/30～）</li> <li>・東京医科歯科大学より小児科医師毎週木曜日（11/7～）</li> <li>・研修医の平成26年度マッチング結果 10月24日1名決定</li> <li>・女性医師の受入体制の整備を図り当直室を整備した。</li> <li>・新外来棟に男女別の医師仮眠室を整備した。</li> </ul>	おり実施
D P C 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D P C / P D P S 評価対策</li> <li>・医療情報管理室の機能強化</li> <li>・診療情報管理室の機能強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D P C 導入実施済みで、医療の効率的な運用を実施している。</li> <li>・毎月DPCによる経営指標を示している。</li> <li>・全国1,400施設以上の急性期病院で導入され、D P C 病院間での比較検討を行い、経営改善の指標としている。</li> </ul>	計画とおり実施
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病診、病病連携、地域連携パスの推進</li> <li>・医療・保健・介護・福祉とのネットワーク強化、連絡協議会の立上げオープンシステムの拡充と入院機能への特化</li> <li>・チーム医療による情報共有の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率目標（H25年度45%） 36.8%（4～9月平均） 34.7%（前年同期）</li> <li>・逆紹介率目標（H25年度35%） 35.8%（4～9月平均） 31.0%（前年同期）</li> <li>・オープンシステム委員会総会を開催した。 登録医 H24年 136名 H25年 138名 6月13日（木） 参加者 216名 土屋外科医師による「当院における外科治療～これまでとこれから～」の講演と関根医院院長「当院における在宅診療の現況」の講演が行われた。</li> <li>・オープンシステム勉強会を毎月定期的に行っている。</li> </ul>	紹介率は目標に未達成だが、逆紹介率は計画目標達成

	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の進める包括ケアシステムに向け、院内に「地域包括ケアシステムを考える会」を設置し、医療・保健・介護・福祉とのネットワークについて研究している。</li> <li>メンバーは、須賀川市 市社会福祉協議会 すかがわ介護支援専門員協議会 須賀川ホームヘルパー協議会 須賀川中央地域包括支援センター 県中県南訪問看護ステーション連絡協議会 公立岩瀬病院</li> </ul>
--	---

### 3 経費削減・抑制対策

		取組の実施状況	自己評価
人的資源の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>BSCによる目標管理・評価制度の推進</li> <li>人員配置の適正化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入職員として看護師5名(7:1看護体制確保のため)理学療法士2名、作業療法士1名(土曜日ハビリを実施し早期リハビリ介入による治療効果の向上を図るため)、薬剤師2名(各病棟1名の薬剤師配置により医療の質および医療安全の向上を図るため)、その他管理栄養士1名、保健師1名を採用した。「公立岩瀬病院中長期計画」に掲げる基本方針、重点課題を積極的に推進するための体制を強化した。</li> <li>医師事務作業補助者を2名増員し12名体制とし、医師労働の軽減に取り組んだ。</li> </ul>	計画とおり実施
医薬品・材料費の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェネリック医薬品採用の促進</li> <li>医療材料費の部門別管理の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後発品への変更を引き続き促進した。</li> <li>後発品率(目標9.0%)10.45%(平成25年9月末現在)</li> <li>医療材料費の部門別管理については、引き続き作業中</li> </ul>	ジェネリック医薬品採用については計画とおり実施。医療材料費の部門別管理については引き続き取組み必要

その他経費削減	・ 物流管理システム体制の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消耗備品一部について見直しを図り、経費削減を図った。</li> <li>・ 電気、燃料費の削減に向け管理を強化、経費削減を図った。</li> <li>・ 清掃、医事業務の委託業務を見直した。</li> <li>・ 代替品の採用による経費削減(消耗備品等)を実施した。</li> </ul>	計画とおり実施
---------	-----------------	---	---------

#### 4 その他

		取組の実施状況	自己評価
医師負担の軽減	・ 医師事務作業補助者の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師事務作業補助者 12 名を配置している。</li> <li>・ 常勤医師の減に伴い、外来診療及び当直業務が負担増になっており院外の診療支援について取り組みを行った。  外来支援医師 福島県立医大 毎週 12 名  その他県内 毎週 10 名  県外 毎週 7 名</li> </ul>	計画とおり実施
経営形態の見直し	・ プロジェクトチームの立上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独立行政法人化に向けた事務担当チーム内で、必要な課題・項目の整理に着手した。</li> </ul>	引き続き課題への取り組みが必要
広報活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の推進</li> <li>・ 親しまれるホームページを作成し、情報発信を強化</li> <li>・ 病院広報誌の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座を延べ 8 回実施した。</li> <li>・ ホームページの更新を実施、内容の充実を図った。</li> <li>・ 院長フェイスブックによる情報発信を平成 24 年度 10 月から開始し、327 名(実人数)から「いいね」の反応があった。</li> <li>・ 病院広報紙発行部数を 500 部から 1,000 部に増やし毎号</li> </ul>	計画とおり実施

		<p>600部程度を連携医療機関や施設に郵送している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央診療棟・外来棟の建設状況をお知らせするページを公開した（平成24年4月から）。</li> <li>病院広報紙の院内配置を見直し、バックナンバーの配置を行った。</li> <li>新たに、病診連携で登録いただいている先生方を対象にした「連携通信」の発行開始を平成25年1月から発行を開始し、10月までに6号を発行した。</li> </ul>	
<p>患者満足度の持続的な向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア組織(病院友の会)の立上げ</li> <li>患者会組織の立上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来ワゴンサービスを開始し好評を得ている。（平成24年5月から）</li> <li>ボランティア組織「友の会」を7月に発足させた。（現在会員76名）</li> <li>外来・入院患者さんに対するアンケート調査を実施した。（平成25年9月実施） 配布数500枚 回収数340枚（回収率68%）</li> </ul> <p>&lt;アンケート結果のおもな特徴&gt;</p> <p>職員の声かけ、言葉遣いなど言動に対する満足度は、全ての職種、全ての項目で90%を超えている。</p> <p>当院を選んだ理由の第1位が「以前から通っているから」、第2位が「他医療機関からの紹介だから」、第3位が「通院に便利だから」となっており、近隣の方で継続して受診されている方が多く見られた。</p> <p>「待ち時間に対する満足度（全体）」では、普通が全体の半数近くの45%になっており、次に、やや不満が28%であった。</p> <p>患者会組織立上げについて検討中</p>	<p>計画とおり実施</p>

## オープンシステム

オープンシステムとは、患者中心の医療をすすめていくため、病院の施設・設備を地域の医師に開放し、各医療機関で診療中の患者さんをそのかかりつけ医と当院の医師が共同で診療にあたるというシステムをいう。

## 外来ワゴンサービス

外来患者さんの待ち時間対策の一環として御茶、水、新聞、雑誌などを直接、声をかけながら手渡ししているサービス。患者さんからたいへん好評で、午前中に実施している。クレームについても率直にお聞きし対応している。

## DPC/PDPS

DPC/PDPSとは「Diagnosis Procedure Combination/Par-DiemPayment System」の略で、従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者さんの病名とその症状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分(投薬、注射、処置、入院料等)と出来高評価部分(手術、麻酔、リハビリ、指導料等)を組み合わせる計算方式をいう。

## BSC(バランス・スコアカード)

バランス・スコアカードとは、アメリカ、ハーバード・ビジネススクールのロバート・S・キャプラン教授と経営コンサルタントのデビッド・P・ノートン氏が開発した経営管理手法。企業の業績(経営者の責任)をこれまでの定量的な財務業績からだけでなく、多面的に定義することが必要だとし、それらをバランスよくマネジメントするための手法として提唱された。

財務 顧客 内部プロセス 従業員の学習とスキルの4つの視点で目標を設定し、4つのバランスを保ちながら病院の目的を戦略に沿って、病院幹部と職員が同じ方向に向かって日常業務を進めていくことにより、経営改善につなげていこうとする経営マネージメント・ツールである。